

総会宣言

私たちは、ここ岩国に集い、米軍再編による全国各地の基地の動きと住民の闘いの現状について報告し合い、再び運動の連携を確認し合うことができました。

2011年3月11日の東日本大震災では、米軍は被災者救援の名のもとに「トモダチ作戦」を繰り広げました。これは、被災者救援を名目にしてはいますが、実際には核戦争を視野に入れた日米の軍事作戦を試みたことはあきらかです。そのことは、横須賀で定期点検中の原子力空母ジョージ・ワシントンが点検を中断し、NLPを行わないままに横須賀を出港したことに表れています。

しかも、「トモダチ作戦」を展開する一方で、トモダチ作戦の米予算が8000万ドル(約65億円)であつたのに対し、3月31日、衆参本会議で議決され、4月1日に発効した思いやり予算の特別協定では、毎年度1,881億円、5年間無条件で今後1兆円を支払うことになりました。

米軍の安い投資で5年間にも及ぶ多額な税金を在日米軍につぎ込むことになつたのです。もともと「思いやり予算」が始まつた時は、「暫定的、特例的、限定的な措置で5年間に限ったもの」であつたのが、以来、事実上恒常化され、さらにこの国難の中、今回の特別協定は、3年の期限を5年間に延長し、新たに米軍住宅の環境対策にも使われるなど、適用を拡大した日本政府にはあきれるばかりです。

6月21日の2プラス2において、グアム移転と普天間移設が遅れることが明らかとなりましたが、その一方で厚木からの空母艦載機部隊の岩国への移駐はロードマップ通りに推し進められようとしています。しかも、馬毛島をFCLPの恒常施設に選定しようとしており、地元でも反対の声が上がっています。沖縄では、普天間を固定化させてはならない、嘉手納統合案反対の声が上がっており、9月8日にも沖縄防衛局前で集会が行われました。また、日本政府は米軍の指示により、来年10月に欠陥機であるオスプレイを配備することを関係自治体に通告してきており、宜野湾市、沖縄県などからも反対の声があげられています。

岩国では、昨年4月15日に新滑走路とその関係施設が日米合同委員会において米軍に提供され、5月29日に新滑走路の運用が始まりました。つまり、辺野古に回帰した2プラス2の翌日に米軍は岩国の新しい滑走路を使用し始めたのです。それによつて、これまで禁止されていた2機編隊の離着陸が行われたり、飛行ルートが代わり市街地上空の飛行も確認されており、新たな爆音を撒き散らしています。しかも、愛宕山までも米軍に提供し、米軍住宅及び米軍関連施設にしようとしています。これに対し、愛宕山周辺住民は月3回の座り込みを続けるなど反対の行動をとり続けています。

韓国においても、済州島に韓国海軍基地が拡張されようとする事に対し、地元住民が阻止行動を続けていますが、警察などの弾圧も激しく、今後も在日米軍だけではなく、在韓米軍の再編問題についても、共に闘っていくネットワークを構築していかなければなりません。

米軍再編を止めるためには、直ちにアメリカ追従のありかたから脱却し、基地、軍隊、核抑止力、原発に頼らない平和で安心して暮らせる社会を目指し、全国各地の私たちが連帯し合い、粘り強く運動を続けて行きましょう。

2011年9月23日

日米軍事再編・基地強化と闘う全国連絡会 第5回総会